

社会福祉法人なごみ福祉会 療育相談 でんでん虫 2023

We love music  
Let's enjoy music together



# 42 歩



〒214-0012 川崎市多摩区中野島 4-3-28 TEL : 044-911-2612 FAX : 044-911-0462

Mail : dendenmushi@nagomi-fukushi.or.jp

## みなさん、お元気ですか？

2023 年度は、『親と子の寺子屋でんでん虫の家』が療育相談の事業を開始して 42 年目、平成 18 年度に法人の公益事業として位置づけられて 18 年目の年でした。

利用者さん・スタッフを含め、身近なところでの新型コロナ、インフルエンザ等の感染者がゼロになった訳ではありませんが、それによる活動の制限はほぼ無くなり、ある意味再始動したような 1 年でした。

でんでん虫としては、前年度末に複数の職員の退職があり、その後の人材の確保が上手くいかず、数名の外来療育利用者の利用回数を減らさざるを得ない、また法人内の送迎サービスの縮小により新たな送迎の方法を探さねばならない、というスタートでした。そんな状況でしたが、職員は 4 月に嘱託 1 名、非常勤 1 名、9 月に非常勤 1 名の採用が出来、更に現非常勤職員の就業時間増という協力があり、数名の方にご不便をおかけしつつも外来療育は継続しました。送迎サービスも地域の事業者と連携することで、多少不足はありつつも、利用する方々のニーズに何とか応える方向に転換出来たと思います。

送迎サービスやでんでん虫が取り組む余暇支援(療育)は、利用する方々の『地域生活』、生きがいや豊かな『文化的な生活』を継続するために大切な事業だと捉え、今後の事業展開を考えていきたいと思っています。

また、人材的には厳しい状況でしたが、活動の制限が無くなって来た事と合わせるように『でんでん虫音楽療法研修会』再開のご要望をいただき、8 月に 4 年ぶりの教職員向け研修会を行なうことが出来ました。主に川崎市内在勤の先生方が 25 名、熱心に参加してくださり、共に充実した時間を過ごさせていただきました。

学校支援・施設支援の件数は更に減少傾向ではありますが、現在の職員体制では残念ながら積極的に増やすだけの人的な余力も無いため、様子を見つつ取り組んで来ました。『教育と福祉の連携』という視点からも、『地域療育』『地域連携』という観点からも、大切な役割だと捉え続けてきた事業なので、今後どのように進めていくのか、しっかり考えねばならないという責任を感じています。

連携の方法は多様に考えられると思いますが、それが単なる役割分担にならず、本当の意味でお互いの理解を深め、地域でのより良い関係につながっていくよう、今後も取り組んでいきたいと思っています。

地域療育事業部

療育相談でんでん虫・子ども相談室でんでん虫 代表 渡邊紀子



# 2023年度 活動報告

## 【外来療育】 ○通常プログラム

ようやく新型コロナウイルスの対応が5類となり、欠席やマスク等に関する縛りが緩くなりました。マスク着用が自由になったことで大人も子どもも伸びやかな印象となりました。でんでん虫の活動も笑顔や表情を直に見ることがお互いできるようになり、「あんな表情」「こんな表情」が沢山見られました。本来の人と人が互いに感情を表しながらやり取りするということが日常に戻ってきたようです。活動内容も時間もコロナ仕様となっていたところを少しずつ戻しています。大人も子どももエネルギーをためていたかのように活動を楽しんでくれた場面が多く見られました。

	提供プログラム	利用人数	年間セッション数
1	外来療育(個別・グループ・言語)	85	1095
2	健康体操	16	22
3	YYプロジェクト	8	23
4	太鼓クラブ	8	12
5	サイエンスクラブ	8	12
6	土曜親子リズム	7	6
	合計	132	1170

## 【年間行事・特別プログラム等】

今年度は8月に「教職員向けの研修～でんでん虫の音楽療法ワークショップ～」を行うことが出来ました。

参加者は25名に上りホールいっぱいになんか集まり輪になった場面は圧巻でした。教員の皆さんが中心でしたが皆さんが「久しぶり」「再開を待っていた」と熱心に楽しく参加し学校現場ですぐに取り入れたいといろいろなことをお持ち帰り下さったようです。後日「早速クラスの子も達と取り組んでいます！楽しい。」といろいろな先生方からお話を聞いています。



今年度の「第30回ポプラの音楽会」は観覧の方の人数の制約をなくし、ご家族、お友達、学校の先生方などに声をかけて誘えるようにしました。するとご両親の他にもおじいちゃん、おばあちゃんや学校の先生、お友達も応援に観に来て下さり出演者だけではなく会場も熱く一緒に音楽を楽しみ最後はみんなで久しぶりに声合わせ♪ビリーブの歌を唄いました

★チャリティーコンサート「Happy Notes Vol29」 ★でんでん虫のXmas会

## 【学校・施設支援】

今年度も川崎市立小学校特別支援級に音楽の授業に取り組みました。20数年前からの活動を現在も継続することが出来ていることはでんでん虫の地域との関係の積み重ねの重要な歴史となっています。

子ども達の「あれがいい！」「やりたい！やってみたい！」「ここに居たい」「やったー！」の自発的な気持ちを引き出し、それをそこにいる仲間と共有できる活動を行い、大人はそれをどのように支援し次につなげることが重要であり必要なかを先生方と考えてきました。児童期に安心した集団や関係の中でその経験をしていることはその後の成長の土台作りに必要な経験と考え今後も継続します。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により活動の縮小を行なった結果、継続が途切れてしまった学校もあり学校支援先は過去数年の中で最も減少しました。新たな関係づくりや進め方の工夫をしながら取り組みます。

施設支援も同様、利用者の皆さんが楽しみにしてリズムの日を待ち当日お一人お一人の表現を大切にしながら満足感や達成感に繋がるような活動を考え提供します。



主な法人外施設： あーる工房・作業室なかのしま  
 ・らぼおるの樹 kokonara・稲城七つの子・友遊クラブ  
 地域活動支援センターアルデンテ 等

小学校	17校	47回
外部施設・作業所	6か所	87回
星槎大学（適応自立支援コース）		25回
夜間保育所あいいくリズム		4回
合計		150回



## 【法人内連携（音楽活動）】

あゆ工房（49回）	49回	なごみ保育園	24回
夢花工房（夢花45・デイリー21・ドリフラ23）	89回	太子堂なごみ保育園	24回
児童発達支援事業ここから	20回	梅ヶ丘なごみ保育園	24回
放課後等デイサービスここから	20回	三宿の杜なごみ保育園	12回
子育て支援センターページブル親子リズム	12回	北烏山なごみ保育園	23回
		合計	297回

★このほかに法人内連携は世田谷の放課後等デイサービスここからの保護者会で日頃の子ども達とのリズムの様子と一緒に体験していただいたり、なごみ保育園の父母会主催「親子リズム」をコロナ後久しぶりに再開することが出来ました。

日頃リズム等で共に活動している「ここからの子ども達」「なごみ保育園の子ども達」と保護者の皆さんと共に暑さの中それを上回る熱いエネルギーで楽しく活動出来ました。

# 「リズム」は子どもたちの宝物

太子堂なごみ保育園・梅丘なごみ保育園 リズム担当 中井 深雪



私の姿を見つけると、「リズム！リズム！」「やったー今日リズムだー！」とよろこんでくれる子どもたちに出会えるのはしあわせです。25年間、子どもと精神科を主領域とする音楽療法一筋にやってきて、コロナ禍を経て、あらためて子育て支援の今後を考え、保育園に音楽が専門の保育士がいると、子どもたちの情操の発達はきっと向上する、と確信して保育士になりました。そこで、その立場を音楽療法士と区別するため、敢えて「音楽保育士」と名乗っております。

音楽療法と音楽教育の一番の違いは、後者は、より質の高い音楽性や演奏技術を学んでもらおうとするのに対して、前者は、音楽をコミュニケーションツールとして子どもたちと共有することで、子どもたちの自ら育とう、表現しよう、他者に解ってもらおう、とする力を引き出すことにあると私は考えております。

さて、「リズム」の活動は、大きく分けて、リトミック、合奏、ダンス、歌唱に分かれています。中でも「リトミック」といえば、幼児教育の花形的活動の一つに挙げられますが、「リズム」で行うリトミックは2つのセクションに分かれています。

その1つ、「Go & Stop」では、まずリズムパターンや切り替えの合図など、いくつかの簡単なルールを子どもたちと共有し、子どもたちが音を聴きながら身体活動を切り替えていきます。子どもたちがルールを覚えるのは、時に担任の先生より早いくらいです。ゲームが得意な現代っ子たちにとって、それはよりリアルな体験ゲームなのかもしれません。その中で、より音楽的なルールを多用して子どもたちに音楽を理解してもらえよう努めています。なので、やや音楽教育に近い活動といえます。

もう1つの「ジャングル・サバイバル」または「子どもカーニバル」では、そのときに担任の先生や講師が提供するイメージや舞台設定に沿って、子どもたちが演技をしてくれます。そして、難しい身体機能を使って動物を演じたり、森羅万象を模(かたど)ったりしながら、心を解放し、イキイキとした表情で非日常を体験します。時には、人間を超える感覚に満たされているのかもしれないと思えるその嬉々とした表情は、子どもたちの自己肯定感の成長の可能性がいかに無限大であるかということを感じさせてくれました。

今年も、「リズム」は子どもたちの期待と成長に応えていかねばと思います。



# なごみ保育園のリズム

～～新しい試み「英語 de リズム ♪」～～

金澤朋子

4月からなごみ保育園のリズム担当になりました。また、感染予防のためグループを分けて少人数で行っていたところを今年度は年齢別クラスで行いました。

クラスの様子も考慮しながら、担任の先生方とアイデアを出し合い、普段の生活の様子を参考にしながら、また音楽的な側面からは内容を提案したり提供しながら進めてきました。年度の終わりには、3歳児、4歳児、5歳児クラスがお互いの演奏を披露しあうミニ発表会を行いました。堂々と前に立ち、気持ちを合わせて演奏して、みんなたくさんの拍手をもらいました。

そして、今年度はリズムと英語が同じ水曜日であることから、5歳児クラスで「英語 de リズム」を3回実施。おなじみ「ジャングルサバイバル」を英訳して歌い、動物の名前や鳴き声も英語、カレン先生のお手本を真似して…動物の動きも英語っぽくなったのでしょうか？毎回、英語の時間に取り組んでいるテーマをリズムで遊ぼう、という形でプログラムを設定。サンドイッチを作ること、ウィンタースポーツをすること、ダンスの振り付けを英語で行い踊ること…元気な掛け声「Yeah(イエーイ!)」が自然に出てきます。見慣れた楽器の名前も曲名も、英語で言ってみると新感覚。リズムの時間に新しい楽しさが加わりました。



自分も楽しい！

みんなも楽しい！

THE Volcano !



新型コロナウイルスが5類に移行し、演奏や交流の機会も少しずつ増えてきました。

2023年は「ここから祭り」や「Happy Notes」でも演奏の機会をもち、活躍したボルケーノ。

今回、演奏に加えていただくことで、観客を惹きつけるパフォーマンスの秘密が分かったような気がします。

とにかく、練習のスタートから**(その前から!?)**、楽しむ気持ちがあふれているのです。

「Happy Notes」では、会場を巻き込んだ参加型のステージが評判でした。ミステリアスな演出の「アラビアンナイト」から始まり、「め組のひと」や「カバになって」「ラ・クンパルシータ」などの定番曲、そしてアンコールでは「情熱大陸」を披露しました。

「ポプラの音楽会」では、会場の「待ってました！」と言わんばかりの拍手で、ボルケーノのやる気も最高潮に。「エル・クンバンチェロ」ではゲストを迎え、熱気あふれる演奏をしました。

音楽を楽しむ気持ちが日々のうるおいにつながるって素敵だな、とみなさんの姿から実感します。

今年度も、進歩し続けるボルケーノから目が離せません。

(記:中村真樹)



# パワー全開！！施設支援～皆さんと共に

川崎多摩川の里身体障害者福祉会館

## 作業室なかのしま

毎月2回木曜日

「なかのしま」の皆さんはそれぞれ自分に合わせた車いす、ベットの  
上から等で参加しています。皆さんはそれぞれの表現方法で音楽リズム  
を楽しんでいます。手具を扱う方・声・視線・表情・身体の揺れ等様々です。

好きな歌や曲が始まると「待ってました！」とばかりに大きな口を開けて伸びやかに声で参加する方、スタッフの動  
かすバチや手具の動きを視線で追って一緒に取り組む方、出番が来ると身体じゅうで楽しさを表しジャンプする方、  
音楽や呼びかけに足や身体をウキウキと動かして応えて下さる方々。お気に入りの楽器をねらって選びダイナミック  
に鳴らす方。

そして利用者の皆さんと共に音楽に参加し一緒にリズムの時間を楽しく支えて下さる職員の皆さん。スカーフやバル  
ーンの中を車いすの利用者の方々と共にタイミングよく駆け抜けて風を感じた利用者の皆さんから満面の笑みを引  
き出したり、キラキラとした手具のポンポンを手にして時には愉快地そして時にはエグザイル顔負け？にダンスと動  
きで利用者の皆さんを楽しませて皆さんのエネルギーを引き出してくれます。

プログラムを計画する私たちも「きっとなかの  
しまの職員さんならのってくれる！」と、もう  
それをイメージして内容や曲を選んでいきます。  
音楽を提供するだけではなく、利用者の皆さん  
のそれぞれの表現方法を大切に受け止めな  
がらすすめ、また利用者の皆さんと職員の皆  
さんが共に楽しい時間を体験し共有出来る時  
間となるようにしていきたいと考えています。

(記:栗原敦子)



夢花工房です！





## 「あーる工房 (みのり会)」

2023年度は月に一度のペースで実施、利用者さんは奇数月グループと偶数月グループに分かれて参加されました。利用者の皆さんは二か月に一度の音楽を楽しみに待っていて下さり、前回の内容を覚えておられて、「今日は何するの?」とワクワクした様子で始まります。

タンバリンでソロを呼びかけると、「私はどうやって鳴らそうかな?」と考えて応じてくださいます。その様子を見た次の方も「じゃあこうやってみよう」と前の方とは違う表現をされ、とうとう最後の方になると「待ってました!」とばかりに体中を使って皆さんから歓声上がるような“タンバリン使い”をされることもあり、毎回何が飛び出してくるかウキウキワクワクです。

「今日の合奏は何?新曲?」と質問が出るほど、合奏も楽しみにしておられます。まず聞いていただくデモ演奏は、職員さんをお願いします。いきなり前に立ち初めての曲を指揮だけを頼りに楽器を演奏することは職員さんにとってもドキドキすることですが、利用者の皆さんは身を乗り出すようにして聞き、(素晴らしい!)演奏を終えた職員さんがホッとすると同時に大きな拍手!!そして、最初に演奏したい方々が手を挙げて次々に立ち上がります。最近ではより素早く応答される方が増えたと感じます。演奏を終えて拍手を受ける皆さんは誇らしげな表情です。

また、全員で立ち上がって踊ることもあります。振り付けは自由に、職員さんと向きあって踊り合う様子も見られます。目を合わせて、気持ちを共有し一緒に掛け声を上げると、一体感が生まれます。

最後の歌ではのびやかに自然に声一つになってメロディを歌います。パワフルに、楽しくいろんな「自分」を出して、出し切ってすっきりした様子で♪さよなら~と歌って終了。あーる工房の皆さんのエネルギーで豊かな音楽の時間です。(記:金澤 朋子)



# あゆ工房のリズム活動から・・・

毎週火曜日 13:00~14:00

プログラムの前半はみんなで鳴らし合うことをねらい市村の吹くインディアンフルートの奏でる曲に合わせてシェイカー、鈴など振って鳴らす楽器で軽やかに始めます。次に叩く楽器(小型の太鼓、木魚などの木の楽器、アゴゴベルなどの金属の楽器)に換えて、色々な音色を合わせた少しボリュームのある音で、スタッフの太鼓や歌に乗って、自由に鳴らし合います。「こうすべき」という決まりのない、「間違いがない」活動で、自分なりの表現を楽しめる場にしたいと思います。最初はなかなか自分から音を出さない方も聴くという参加をしており、どこで音を出すか、自分で決めて踏み出すことを大切にしています。自由に鳴らししているうちに自分だけではなく、仲間の音にも気を向けるようになり、だんだんと一体感が出てきました。それに伴い、音楽的な変化にも気がついて、鳴らし方を変えるようにもなってきました。



楽器演奏の後に、身体と心の緊張を和らげるため、手具にスカーフを使って音楽に合わせて柔らかく動くダンスをします。皆さん、なかなか素敵な動きをしています！

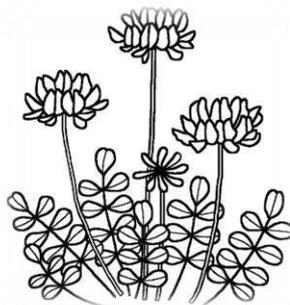
ダンスで身体を動かした後は、主に和太鼓の演奏を行っています。4人ずつ皆の前に出て一緒に演奏した後、一人ずつ演奏する場面もあります。自由にリズムをつくったり、振りつけが入ったり、小さい音でも演奏していたり、緊張や不安に負けずに演奏するなど、一人一人

味のある演奏が魅力的な時間です。笛や、時に三線(さんしん)と一緒に演奏したり、和太鼓だけでなく他の楽器を使って、色々な音色や音楽を楽しめる時間にできたらと思います。

太鼓で盛り上がった後は、季節の歌や、響きが綺麗な楽器を鳴らしながら、ゆったり音楽を味わい、そして最後の「さよなら」の曲に合わせてツリーチャイムを一人ずつ鳴らします。一人ずつなので待ち時間も長くなりますが、自分の順番が来るのを楽しみに待っています。一人一人鳴らし方に個性が出て、それに音楽が合わせるので、同じ曲でもその人のカラーになる、素敵な時間です。

音楽を通して個を大切にしながら、お互いのつながりも意識できる、そんな時間にしていききたいと思っています。

(記:市村真理子・佐藤祐子)



インディアンフルート

# サイエンスクラブ

## ★毎月第4金曜日子育て支援センターページブルにて

近隣小学校の児童たちが16:45開始を目指し飛び込んできます。「僕一番? やったー!」「隠れておどかさう」「藤高先生今日は何?」と準備物をジッと見ながら探りを入れつつ、集まってきたら「ねーねー隠れんぼしない?」「あのさ〜」、お互いに自然な呼びかけや会話が弾み、クラブが始まる前から賑やかです。

小学1年から5年生までの8名が集まります。5年生は1年生の時から来ているのでその成長ぶりには驚きます。

困っている後輩に自然と手を貸していたり、声をかけていたり。学校の仲間とはまた違った地域の仲間が作られています。自然、宇宙、科学、化学、地質等様々な分野にわたるテーマですがそれを自然に子どもたちの生活



の中に興味ある題材にし、子どもたちの「なんで?」「どうして?」の疑問から自分で考えて答えを自分で探すことの大切さを教えてくれる藤高先生。知識理解ではなくそれを遊びや工作、実験でその特性をもっと体で感じる事が出来る導きをしています。

オリジナルの芳香剤を作ったり、水で膨らんだ風船に鉛筆を刺したり、絶対切ったら落ちるだろう?のヒモをドキドキしながら切ったり。年齢に関係なく仲間となることの良さがあります。わあわあ 🌊 キャーキャー 🌊 と賑やかです。

## ページブルの親子リズム

★毎月第3金曜日 ①10:00~ ②11:00~

コロナ禍の時も定員人数や進め方に工夫しながら毎年積み重ねてきました。

1歳半位の子から幼稚園入園前の子ども達を中心に行っていると最初はお母さんの陰に隠れて精いっぱいだった子も少しずつお母さんの膝から離れていきます。安心して自分から前のめりになっていき活動を楽しめるようになるために大人はどこを助けて見守ればよいのかいつもお母さんたちは悩みます。でも基本は子どもに「させよう」ではなく一緒に楽しみ「ほら楽しいよ〜」とお母さんが楽しい表情や様子で参加してくれていると子どもの個性は違ってそれぞれが安心して気持ちも身体も動き始めるような気がします。子どもたちが自分で遊び取り組み始め子どもたち自身が嬉しい楽しい表情を見せるようになると同様にお母さんたちも嬉しい表情になっていきます。そのお母さんたちの心配や喜びを私達スタッフが共有します。

子育て支援センターページブルのスタッフに見守られながら子どもが小さな頃の子育て時代に親子が「楽しかったね」と互いに思い合うことが出来る体験の提供とそれを共有できる信頼関係が子を育てる親御さんたちの支えになればと考えています。

(記:栗原敦子)



子どもにもママにも安心基地



## 日々のごほれ話

リズムに参加している M さんのグループはポプラの音楽会で「アメリカンパトロール」を演奏しました。曲の終わりにピアノの音でおじぎをするときは、「れい！」と号令もかけてくれます。ポプラでの演奏も大成功！その後のリズムでは、「れい！」と言えば「アメリカンパトロール」のこと、となりました。大好きなこの曲をリズム終了後に「れい！」「れい！」と礼の動作も交えてリクエストする M さん。ピアノで聞くと大満足、礼をしてホールを後にします。

「YY プロジェクト」コロナの感染対策でずっと出来なかったみんなでワイワイおしゃべりしながら夕飯を食べる事を再開しました。作る事だけではなく、生きる力！と全部違う種類のレトルトカレーを選びジャンケン大会で決めたり、(値段の高い物が人気とはかぎりません・・・)縁日と称してゲームと食事。しかしまだ実現できていないのがピクニック。計画すると雨、灼熱。誰か天気と雨男、雨女がいるんじゃない？と噂。2024 年度は実現できるかなあ～。

「夢花ドリフラ～」と歌えば自然に体も踊りだす、オーロラ班、オリーブ班のみんな。KR さんのダンスは日々ダイナミックになり最近でははっきりと歌いながら踊ります。A さんはジャンプと高速スピンでみんなをリードし盛り上げて笑顔！I さんはスタート合図のシンバルをばっちり決めて！先日は M さんが初めて手を挙げて出てきて、「勇気100%」のタイコとシンバルで3種類のリズムを打ち分けて決めてくれました。ある日突然あらわれるみなさんのすてきなパフォーマンスに驚いてうれしくて、みんなで楽しいドリフラです。

### The volcano ! in Happy Notes

毎年11月23日に行われているチャリティーコンサートに出演することがとても楽しみなメンバー達。2023 年度後半は♪東京ブギウギのズキズキワクワクが注目されましたが、お客さまとの近い距離で直接声援を頂き、それに応えてメンバーも張り切り、またそれに応えてくれるお客様達。2024 年度はコンサート 30 周年です。会場を江古田の Buddy に移し今からもうワクワクしています。お楽しみに。



shutterstock.com · 2007602579

青年たちのグループセッションでの出来事。  
「カルメン」でトム(太鼓)に集中していた S くん、もう一人の S くんが華麗なシンバルを聴いて「それいいね」と言いたげに自分の演奏に取り入れ始めました。  
私たちスタッフより、仲間の演奏の方が何倍も説得力があるんですね。  
互いの存在感の大きさにちょっと嫉妬しちゃいます。

こ

ん

に

ち

は

よろしくお願  
いします！

### 中村真樹です！

昨年9月から月・木・金曜日に勤務しています。

昔むかし学生だった頃から、音楽療法に興味をもっていたものの、卒業後は教員に。以来20年以上公立小学校・特別支援学校に勤務していました。

教育の現場はとても楽しかったのですが、やっぱり音楽療法が勉強したい……そんな思いで再び学び始め、スーパーバイザーを渡邊先生にお願いして資格を取得。2023年に川崎市の教員を退職し、現在はでんでん虫での勤務のかたわら、高津支援学校生田東分教室でも非常勤として働いています。

いろんなご縁がつながって今ここにいられること、本当に幸せだなと思っています。今年もみなさんの瞳が輝く瞬間に少しでも多く立ち合えること、楽しみです！どうぞよろしくお願いいたします。

### 佐藤祐子です！



あゆ工房の音楽の時間や、火曜日の外来リズムを担当しています。

子どもの頃から楽器が好きで、身近にあるものを鳴らしていたのが染みついて今も癖になっています。

ビンを吹いたり、缶やお盆を叩いたり、沖縄のビーチでサンゴの叩き比べ、砂でマラカスをつくったり、ホームセンターや百均でも…とりあえず気になると鳴らしてみたくなり、良い音がすると小さな幸せを感じます。音楽の時間では、一人一人の音と音の交流を大切にしたいと思います。



### 市村真理子です！

毎週火曜日に音楽療法を担当しており、今年で三年目になります。

私は、音楽をピアノから始めましたが、他にもジャンバ、ドラム、アルトサクソ、インディアンフルートなどをやっています。

ジャンバやドラムは、叩くと活気づきますが、連続して叩く中で心身が整っていく面もあります。インディアンフルートは、北アメリカの先住民「ネイティブ・アメリカン(インディアン)」の伝統的な素朴な笛です。これらの楽器はリズムの力と深い呼吸によって、音楽のみならず私の健康も支えてくれる必需品になっています。頭痛はジャンバとインディアンフルートで治しています！そんな楽器たちを、あゆ工房やでんでん虫の利用者さんと一緒に鳴らしています。今年も皆さんと楽しく音楽をしてきたいと思っていますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。





# でんでん虫スタッフ紹介

2024年3月現在

みなさんどうぞよろしくお願いたします。

## 《常勤職員》

渡邊 紀子（音楽療法士）

栗原 敦子（保育士・相談支援専門員）

## 《非常勤職員》

金澤 朋子（音楽療法士）

中村 真希（音楽療法士）2023年度9月採用

市村 真理子（音楽療法士）

鈴木 はるみ（音楽療法士・臨床発達心理士）

佐藤 祐子（音楽療法士・保育士）

山崎 弘美（事務）



## 《講師》

田中 多賀子（言語聴覚士・社会福祉士）

栗本 啓司（健康体操）

伊藤 路奈（健康体操）

中井 深雪（音楽療法士・保育士）

田中 真一（太鼓クラブ）

藤高 信男（サイエンスクラブ）

## 《アルバイト》

竹村 風花

## スタッフの他にでんでん虫は色々な方々に支え関わってもらっています。

♪ポプラの音楽会の時には毎年司会を引き受け続けてくれている山崎永子さん。参加者は絶妙な間合いでのインタビューに気持ちがあはぐれて思わず応えてしまう人が続出です。

また長年その音楽会の様子を撮影してくれているフォト企画 YUW さん。でんでん虫のポプラの音楽会の参加者の取組みの様子や様々な表情の一瞬をいつも素敵に捉えてくれます。

♪ボルケーノのコンサートの時には練習に駆け付けてベースで参加して一緒に楽しくコンサートを支えてくれる渥美さん。

♪30年に渡りでんでん虫を応援して下さっているチャリティーライブ「Happy Notes」の関係者の皆様

♪花笑みの会皆様

♪川崎生田ライオンズクラブの皆様

**みなさん！ありがとうございます！**

